

蕨と鉄道 にぎわい創出PJ

～鉄道を中心とした地域貢献～

【団体名】わらてつまつり実行委員会

【担当部署】市民生活部 商工生活室

【提案型】自由テーマ

【協働の形態】補助

1. 事業の目的

わらてつまつりによる地域活性化を目指す。「わらてつまつり」は、年々新たなイベントを盛り込みながら、楽しさを増している。協働事業として継続することで、一層の集客増加や内容の充実を見込み、更なる「にぎわいの創出」と「鉄道の街 蕨」を周知していく。また、蕨駅の様々な歴史や市内の鉄道模型の企業等とも連携し、それらを強みとして蕨を宣伝していきたい。

2. 実施内容

わらてつまつりの開催

日時：平成29年7月8日（土）～9日（日）

会場：蕨市立文化ホールくるる、旭町公民館、JR蕨駅他

参加者数：9,000人（2日間の延べ合計）

内容：わらてつまつりによる地域活性化

ミニ新幹線試乗会、子ども縁日、保守車両試乗会、犬釘うち体験、新幹線顔出しパネル、鉄道模型レイアウトの展示走行、親子参加の模型作り、物販（模型や鉄道用品）、模擬店（飲食物など）、親子段ボール電車コンテスト、模擬店での購入でスタンプを集め抽選会、写真展、蕨を通った有名特急車のヘッドマークを7個展示。

3. 役割分担

団体：事業の企画立案・スケジュール管理及び開催、関係各署との調整

市：公道の使用許可、運営費に係る補助、備品の貸出、会場内電源の仮敷設、広報紙等による周知など

4. 事業費と主な支出内容

(1) 事業費：総額714,606円（うち蕨市協働事業補助金300,000円）

(2) 支出の主な内容

イベント費、人件費、広告費、保険料、雑費

5. 協働による効果

今年も協働事業として、市の広報力、経済的支援、市民のボランティア力、そして蕨駅開業120年に始まる「わらてつまつり」のブランドを支えるJR東日本他の企業商店の協力を得て無事開催することができ、3者の底力を実感した。

2日間で9,000人という賑わいを今年も創出できた。塚越地区のあさがお・ほおずき市との同日開催となり相互の協力を模索した。今後また機会があれば、広報協力などさらに工夫できることを検討したい。

6. その他の成果・感想・今後の課題など

蕨駅の歴史を伝えるため、開催前から蕨駅構内と旭町公民館南側公道フェンスに写真展示のコーナーを設けた。また、公道にも実行委員会で模擬店を設置し多くの流れができた。開催日には、暑さ対策としてミストを二か所設置した。

土曜日のミニ新幹線試乗会に保育園児（近隣5園）を招待した。保育者の手配が難しいなどの理由で参加者はいなかったが、実行可能な方法を探りたい。



▲ミニ新幹線試乗会



▲駅長制服の撮影会



▲沖電気前保安区 線路保守用車両試乗会



▲くるる3階 Nゲージ展示運転会